

群馬県には自然災害に対する『安全神話』があります。「安中市は災害が少なく、安全な場所だ」とお考えの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

確かに安中市では、死者・行方不明者が発生するような災害は60年以上にわたって発生していません。しかし、自然災害は数十年、数百年、時には3.11東日本大震災のように千年に一度というタイムスケールの中で発生します。自分が知っているこの地の歴史の中で甚大な災害がなかったことをもって、安中市は自然災害に対して安全なまちだと考えるのは、誤りと言わざるを得ません。

まさかの事態がわが身に降りかかるのが災害です。そのような事態に直面したとき、人はなかなか適切に行動することはできません。しかし、あなたが率先して避難行動をとる

ことができたかどうか。あなたの主体的な行動によって、周りの人も危機を察知し、つられて逃げるすることができます。「率先して実践・避難」することが、あなただけでなく、周りの人の命を助けることにもつながることを覚えておきましょう。

地域の実情を最もよくご存知なのは、地域にお住まいの皆さんです。この「生き抜く術の心得帖」を見ていただき、改めて地域の皆さんと災害時の対応について相談しておいてください。

群馬大学理工学研究院教授
安中市防災アドバイザー

片田敏孝

心得1

率先して実践・避難

自分の命は自分で守る

災害による犠牲者を無くすためには、市民一人ひとりが、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身である」という原点に立ち返ることが重要です。「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりになり、主体的に災害に備える姿勢を失ってはいけません。

つぎに、家族

自分の命を守ることができれば、家族を助けることができます。また、家族でいざというときの対応を確認し、ふだんから備えていることが、家族の命を守ることにつながります。

そして、地域へ

「率先して実践・避難」し、自分の命、家族の命を主体的に守ることを地域住民同士が共有できれば、たとえ個人での対応が困難な場合であっても、それを可能にする大きなチカラが生まれます。

